

鋼構造物塗装設計施工指針 2013年 正誤表

掲出時期	頁	章, 項	誤	正
2024/2/6 追加	pII-31	表 2.3.6 厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料, 同上塗の標準使用量	350	200
	pII-31	表 2.3.6 同上・低温用の標準使用量	350	200
	附属-11	下から3行目	長厚膜型変性エポキシ樹脂塗料	超厚膜型変性エポキシ樹脂塗料
	参考-136	参表 9.6 亜鉛面用変性エポキシ樹脂系塗料下塗の値	(何も記載されていない)	(左から順に) 200, 40, 160, 40
以下 既報	目次	第I編第4章2	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状等の分類
	目次	第II編第D章4.2	塗装仕様(全工場塗装)	塗装仕様(全工場塗装系)
	目次	第II編第D章4.3	塗装仕様(添接部表面の塗装)	塗装仕様(添接部表面の塗装系)
	目次	第III編第C章1	塗膜劣化状態およびケレン程度見本	塗膜劣化状態
	目次	第III編第C章2 (ページ数)	III-44	III-52
	目次	第III編第C章3 (ページ数)	III-48	III-56
	pI-13	第I編第4章2 標題	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状等の分類
	pI解-13	第D章4 関連する項目	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状等の分類
	pII-24	表 2.3.1 亜鉛めっき面用変性エポキシ樹脂系塗料下塗の気温	5以下	10以下
	pII-24	表 2.3.1 亜鉛めっき面用変性エポキシ樹脂系塗料下塗・低温用の気温	5以下	2以下, 20以上
	pII-25	解表 2.3.1 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の5°Cにおける塗装間隔(下限値)	- (ハイフン)	3D~
	pII-31	表 2.3.6 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の塗装間隔	24H~15D	24H~7D
	pII-31	表 2.3.6 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の塗装間隔	24H~15D	- (ハイフン)
pII-41	[解説]*設計上の留意事項(1)	上り線右側主桁に~	上り線は右側主桁に~	

pII-42	表 2.5.1 厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗の適合する JIS 規格	- (ハイフン)	JIS K 5659 上塗り
pII-42	表 2.5.1 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-31	SPS66099-32
pII-42	表 2.5.1 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-32	SPS66099-31
pII解-6	第 D 章 4.2 標題	塗装仕様 (全工場塗装)	塗装仕様 (全工場塗装系)
pII解-8	第 D 章 4.3 標題	塗装仕様 (添接部表面の塗装)	塗装仕様 (添接部表面の塗装系)
pIII-17	表 3.3.1 塗装系 G-7 (替ケレン-4 以外)・第 4 層目の区分	(空欄)	全面
pIII-20	【塗装系 J】*設計上の留意事項 (2)	また、次層 (厚膜型エポキシ樹脂系塗料下塗) との～	また、次層 (厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料) との～
pIII-30	表 3.4.6	追加	塗料名：厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料上塗、同低温用 希釈剤：専用シンナー 希釈率：スプレー…20 以下 はけ・ローラ…10 以下
pIII-30	表 3.4.6 塗料名	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料下塗	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料
pIII-37	表 3.6.1 厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗の適合する JIS 規格	- (ハイフン)	JIS K 5659 上塗り
pIII-37	表 3.6.1 の塗料名	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料および同・低温用	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料
pIII-37	表 3.6.1 の塗料名	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗
pIII-37	表 3.6.1 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-32	SPS66099-31
pIII-41	第 III 編第 C 章 1 標題	塗膜劣化状態およびケレン程度見本	塗膜劣化状態
pIII解-5	2.2 [解説]*設計上の留意事項(2)	第 III 編第 C 章 2“ケレン程度見本” (pIII-44) を参考とすること。	第 III 編第 C 章 2“ケレン程度見本” (pIII-52) を参考とすること。
附属-1	塗料名	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗
附属-11	塗料名		
附属-26	塗料名称および附表 A3.29 の題名		

付属-60	1. 評価の考え方 の上から 9 行目	Updated MIR Scale for Regulatory Applications, Preliminary Report to California Air Resources Board Contract No.95-308, 1998	Reactivity Estimates for Selected Consumer Product Compounds, Final Report to California Air Resources Board Contract No.06-408, 2007
参考-50	4.1.3 (1)防せい顔料 の 2~7 行目	過去には、鉛 (Pb) やクロム (Cr) の化合物である鉛丹 (Pb ₃ O ₄), 亜酸化鉛 (Pb ₂ O), ジンクロメート (ZnX _ρ O ₄ ・4Zv(OH) ₂), シアナミド鉛 (XN ₂ Pb), 塩基性クロム酸鉛 (PbX _ρ O ₄ ・PbO), 鉛酸カルシウム (2X _α O・PbO ₂ (X _{α2} PbO ₄)) などが安価で性能が高いため多用されていた。しかし、近年に鉛化合物やクロム化合物の健康被害に対する関心が高まり、鉛、クロムを含まない亜鉛末 (Zv), リン酸亜鉛系 (例えば Zv ₃ (PO ₄) ₂), リン酸アルミニウム系 (例えば AlH ₂ P ₃ O ₁₀ ・2H ₂ O), モリブデン酸塩系 (例えば ZvMoO ₄ /ZvO), 亜リン酸亜鉛系 (例えば ZvPHO ₃ /ZvO) の顔料が用いられるようになっている。	過去には、鉛 (Pb) やクロム (Cr) の化合物である鉛丹 (Pb ₃ O ₄), 亜酸化鉛 (Pb ₂ O), ジンクロメート (ZnCrO ₄ ・4Zn(OH) ₂), シアナミド鉛 (CN ₂ Pb), 塩基性クロム酸鉛 (PbCrO ₄ ・PbO), 鉛酸カルシウム (2CaO・PbO ₂ (Ca ₂ PbO ₄)) などが安価で性能が高いため多用されていた。しかし、近年に鉛化合物やクロム化合物の健康被害に対する関心が高まり、鉛、クロムを含まない亜鉛末 (Zn), リン酸亜鉛系 (例えば Zn ₃ (PO ₄) ₂), リン酸アルミニウム系 (例えば AlH ₂ P ₃ O ₁₀ ・2H ₂ O), モリブデン酸塩系 (例えば ZnMoO ₄ /ZnO), 亜リン酸亜鉛系 (例えば ZnPHO ₃ /ZnO) の顔料が用いられるようになっている。
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 3, 5, 7, 9, 10 行目	μf	μm
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 3, 6 行目	BαΣO ₄	BaSO ₄
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 9 行目	XαXO ₃	CaCO ₃
参考-104	3. 標題	3. 設計上の留意事項 (坂本氏担当)	3. 設計上の留意事項
参考-135	5 行目	本文の表 2.2.2, および表 3.3.3 に示す処置を行なう場合は,	本文の表 2.3.2, および表 3.4.3 に示す処置を行なう場合は,
参考-135	16 行目	半乾燥乾燥	半乾燥
参考-135	18 行目	表 2.3.3 および表 3.4.3	表 2.7.2

以上